

関宮学園

令和4年度
-1月号②-
発行 1/11

あけましておめでとうございます

1月10日、三学期の始業式を行いました。子どもたちの元気な声が学校に戻り、三学期がスタートしました。学年のまとめをしっかりと行い、次年度に繋げていきたいと思えます。



片田博さん 登校指導ボランティア ありがとうございます

毎朝、ミニフレッシュ横の横断歩道で、登校指導ボランティアをしていただいていた片田博さんが、12月23日をもってボランティア活動を終了されました。夏の暑い日差しの中も、冬の雪の中も、子どもたちの登校を見守っていただきました。ありがとうございました。



「関宮地区小さな拠点整備」ワークショップ12/22

関宮地域局周辺で進められている「関宮地区小さな拠点整備」に若者の視点を取り入れようと、9年生を対象に、PwC Japanによるワー



クショップを行いました。中学校・高校を卒業し、関宮を離れた若者が、「また帰ってきたい関宮」「帰ってきたとき懐かしさが蘇る関宮」となるために何があったらいいのだろうか、と、レゴブロックを使って町づくり、意見発表を行いました。映画館やスケートボードパーク等の施設やブランコなどの子どもの頃遊んだ遊具、公園、くつろげるレストラン、素敵な提案ができました。

※PwC(プライスウォーターハウスクーパース)

多岐にわたる分野の多様なプロフェッショナルがスクラムを組み、クライアントとともに複雑で困難な課題解決に取り組んでいるコンサルタント会社

1. 17 3. 11

決して忘れてはいけない日、風化させてはいけない日があります。1月になると1. 17の阪神淡路大震災、3. 11の東日本大震災を思い出します。

阪神淡路大震災、地震によって破壊された街の光景は衝撃でした。過去、日本では多くの地震が発生し、その度に多くの被害があったことは、歴史学習として知っていましたが、目の前の現実として突きつけられた衝撃は大きかったです。そして、東日本大震災の津波の記憶も強烈に残っています。

辛い記憶だけでなく、多くの応援物資やメッセージが寄せられ、世界中が心配し、応援してくれているを感じたできごとでもありました。

昨年、サッカーワールドカップに世界中が熱狂しました。スポーツイベントをエンターテインメントとして楽しめることに幸せを感じるとともに、日々厳しい状況にある人々のことを思います。

東日本大震災のときのイタリアセリエAインテルのレオナルド監督のメッセージを思い出します。レオナルド氏は、「我々はよく、サッカーが世界で最も重要なものであるかのような話をするけれど、今回のような悲劇、日本を襲った悲劇は、我々に現実の世界を、何が重要かを思い知らせる。」と。

そして、戦場の瓦礫の中を子どもたちがサッカーをしている映像をみると、人として生きるために、スポーツの果たす役割も大きいのだとも感じます。

今年も「防災」「命」について考える学習をしていきたいと思えます。

被害に見舞われた日本のみなさんとの団結や結束を表現するために、我々は喪章をつけてロシア戦に臨むことを決意し、ロシア側も我々の意向を快く受け入れてくれた。それは、とてもやさやかな行為だし、問題の解決には結びつかないかもしれない。でも、我々はそうすべきであると判断したんだ。我々はよく、サッカーが世界で最も重要なものであるかのような話をするけれど、今回のような悲劇、日本を襲った悲劇は、我々に現実の世界を、何が重要かを思い知らせる。もしかすると、私は今日の試合で采配を誤ったかもしれない。だが、日本で起こったことを考えると、すべてがささいなことに思えてしまう……。残念ながら、今の気持ちをうまく説明するための言葉が思い浮かんでこないが、私にとってとても身近で、とても大切な日本を襲った悲劇が一日も早く終息することを心より願っている。 2011. 3. 12 レオナルド(インテル監督)

関宮学園 HP <http://yabuboard.ed.jp/sekinomiyagakuen/>

